

1月 月例報告書

1. はじめに

雪が本格的に降ってきました。積もるほど降った雪を見たのは人生で初めての経験です。今月の報告書では、ニューヨークでのニューイヤーカウントダウンを終え、冬休みの終了と共に迎えたフィンドレーでの新学期と、日本人学生で行った新年会についてまとめていきます。

2. 新学期

先月は履修登録に追われましたが、無事取りたい授業を登録することができ、新学期を迎えることができました。私は、IELP(Intensive English Learning Program)の授業の他に学部の授業を4つ取っています。フィンドレー大学に留学している他の大学からきた日本人学生が、学部の授業をとる場合、自由に決められた範囲の単位で好きな学部を履修できるのですが、文芸大生はIELPの生徒として登録されているので、学部の授業を履修したい際には、IELPの授業の合計単位より、学部の授業の合計単位が上回ってはいけません。もし上回ってしまった場合、多額の追加料金を払わないといけないため、履修の際はとても注意が必要です。私は前期、Intermediateのクラスだったので、今期はAdvancedのwritingのクラスとgrammarのクラス、culture connectionのクラスをIELPの授業として履修しています。学部では前期と同じく、choirのクラス、artのクラス、religionのクラス、auditor(聴講生)としてGenki kidsのクラスを履修しています。Choirのクラスは、良い先生とクラスメイトと前期とても楽しく活動できたことに加え、春休みに行くヨーロッパのコンサートツアーに参加するためには引き続き履修することが必要だったので、受講することにしました。ヨーロッパのコンサートツアーについては来月の報告書でまとめていきたいと思います。artのクラスとreligionのクラスは、純粋な興味と、友人からの勧めもあり履修することにしました。Genki kidsに関してはまだ本格的な活動が始まっていないため、活動内容なども含めて来月以降の報告書でまとめていきます。

今期から、本格的にフィンドレー大学に通う普通の学生と同じように学部の授業を受ける生活が始まりました。今学期は、前期と比べ、とても忙しくなったように感じます。学部の授業の予習や課題が大変なことに加え、前期よりも履修している授業数が増えた



ことが原因だと思います。ですが、初めは緊張していた学部の授業も月の終わり頃には慣れていきました。先生は皆優しく、クラスメイトたちも英語を学習中のわたしたちを理解してくれます。文芸大にも、英語を使って英語以外のことを学習する授業はありましたが、やはりアメリカの大学で英語を母国語としている学生たちと同じように授業を受け、課題をすることは簡単ではありません。ですが、意外と慣れてくるものです。日本にいた頃は、留学が決まっていながらも、そんなことできるはずがないと思っていましたが、今では友人たちと協力しながら、現地の学生と一緒に授業を受けることが日常と化しています。私は、この学期が始まる前に、残された留学がより意味のあるものになるように前期の反省を踏まえて授業以外の点で3つの目標を立てました。授業や課題など日々が忙しく、なかなか実行できずフラストレーションが溜まることもありますが、良いスタートを切ることができたのではないかと思います。上記に記した履修に関する注意点などが、今後フィンドレー大学に留学したいと考えている方の参考になれば良いと思います。

3. 新年会

日本人の川村先生主催で、日本に興味のある学生や、先生などを集めて1/20に新年会を行いました。そこでは、書き初め体験とおもちを出したのですが、私は書き初めの担当として、来てくれた人達に書き初めについて教えました。前期に一度、gifted向けに書道を教える機会があったので、それを思い出して、日本文化が正しく伝わるように説明をしました。私が教えた人たちが良い先生だったと言ってくれた時は本当に嬉しかったです。日本文化を他国出身の人々と体験できたことは私にとってもとても意味のある出来事になりました。



4. おわりに

冬休み明けだったからか、今月はとても忙しかったように感じます。留学生活の中でもまた新しい生活が始まり、トキメキと共に緊張感のある1ヶ月でした。1月は特に友人の誕生日会や、1セメスターの留学を終えて帰国する友人たちのお別れ会が多かったです。自分の成長を感じることもありますが、一方でもっと成長したいと向上心を持っています。気がつけば残り約3ヶ月、悲しくなる時もありますが、終わりを見るのではなく、その時その瞬間に全力を出し続けられるように、残った日々を大切にしていきたいです。